

第1部 調査の概要

第1章 調査実施の概要

1 調査の目的

川崎市では、昭和60年から5年毎に青少年の意識調査を実施している。今回の調査は、この20年間の動向の変化を把握するとともに、背景となる社会状況との関連、川崎市としての特徴等の観点から青少年の意識及び行動等の実態、行政に対する意見等を広く把握し、今後の青少年施策の基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査設計と回収状況

(1) 調査地域

川崎市全域

(2) 調査対象

川崎市内在住の満13歳以上24歳までの男女4,000人
(住民登録及び外国人登録のある者)

上段：人数

下段：構成比(%)

	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	合計
男性	142 6.7	148 7.0	134 6.3	143 6.8	145 6.8	130 6.1	163 7.7	187 8.8	199 9.4	206 9.7	259 12.2	262 12.4	2,118 100.0
女性	119 6.3	122 6.5	105 5.6	137 7.3	122 6.5	134 7.1	181 9.6	160 8.5	183 9.7	187 9.9	190 10.1	242 12.9	1,882 100.0
合計	261 6.5	270 6.8	239 6.0	280 7.0	267 6.7	264 6.6	344 8.6	347 8.7	382 9.6	393 9.8	449 11.2	504 12.6	4,000 100.0

(3) 抽出方法

上記調査対象者から無作為抽出(平成17年11月16日現在)

(4) 調査方法

郵送配布・郵送回収法

(5) 調査実施期間

平成17年11月30日～平成17年12月28日

(6) 回収状況

	設計数	有効回答数	有効回収率
全体	4,000件	1,313件	32.9%

(7) 調査実施分析機関

株式会社 総合企画

3 調査の時系列比較

今回の報告書では、川崎市における平成7年・平成12年の意識調査結果との比較を行っている。各調査の実施概要は以下のとおりである。

比較内容	過去の調査		今回の調査
	平成7年度川崎市 青少年意識調査	平成12年度川崎市 青少年意識調査	平成17年度川崎市 青少年意識調査
実施団体	川崎市		
調査対象	市内在住 13～24歳男女		
実施方法	郵送配布 郵送回収法	郵送配布 訪問回収法	郵送配布 郵送回収法
実施時期	平成7年 10月1日～11月30日	平成12年 平成13年 12月9日～2月1日	平成17年 11月30日～12月28日
設計数	2,000件	1,500件	4,000件
回収数 (回収率)	935件 (46.8%)	791件 (52.7%)	1,313件 (32.9%)

4 回答者のプロフィール

(1) 性別 (%)

n	男性	女性	不明
1,313	45	54.8	0.2

(2) 年齢 (%)

n	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	無回答
1,313	7.6	8.7	7.7	8.4	7.6	6.6	8.5	7.8	7.2	8.8	9.4	11.5	0.3

(3) 同居家族 (%)

n	父	母	兄弟 姉妹	夫・妻	自分の 子ども	祖父母	その他 の親戚	友達	恋人	その他	一人 暮らし	無回答
1,313	76.1	82.9	70.7	2.5	1.7	15.0	1.4	0.4	1.8	0.8	8.8	-

(4) 居住区 (%)

n	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
1,313	14.3	10.7	15.2	14.5	15.1	16.2	14.0

(5) 居住年数 (%)

n	1年 未満	1～3 年未満	3～5 年未満	5～10 年未満	10～15 年未満	15～20 年未満	20年 以上
1,313	8.6	9.7	12.6	16.5	21.4	19.5	11.3

(6) 現在の就学就労状況 (%)

n	中学校	高校	大学、専門学校、 予備校等	その他 (学生)	正社員・正職員	アルバイト・ パート	無職	その他 (社会人)	無回答
1,313	22.5	22.4	27.2	0.9	16.8	10.2	2.1	1.8	0.2

(7) 未既婚 (%)

n	既婚	未婚
1,313	2.6	97.4

【報告書を読むにあたって】

- ・ 調査結果の数値は、原則として回答率(単位:%)で表記している。%の母数は、その質問項目に該当する回答者の数であり、その該当者の数はnで表記している。
- ・ 回答率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。このため、単数回答の合計が100.0%にならない場合がある。また、複数の選択肢を合わせた場合や小数等を示す場合は、該当者数に戻って計算しているため、内訳の%を加算した数値とは一致しない場合がある。
- ・ 回答選択肢については、本文中において初出以外で扱う場合、及び図表中において、省略した形で表記している場合がある。

第2章 調査結果の概要

1 青少年の生活

(1) 居住地

ア 居住地に対する好き、きれいについて

現在住んでいる地域の好意度は、「好きである」と「まあ好きである」の合計が77.3%を占めており「あまり好きではない」、「きれいである」の合計11.1%を大きく上まわっている。居住年数別にみると、長期間住み続けているほど好意度は高くなっている。

居住地が好きな理由としては、「住みなれたところだから」、「交通機関が便利だから」が多くあげられている。

居住地がきれいな理由としては、「交通機関が不便だから」、「日常生活が不便だから」が多くあげられている。
(詳細:19～24ページ)

(n=1313)

居住地に対する好き、きれい				
好きである	471	35.9%	好きな理由 (n=1015)	
まあ好きである	544	41.4%	住みなれたところだから	376 37.0%
			交通機関が便利だから	210 20.7%
			日常生活が便利だから	146 14.4%
どちらともいえない	144	11.0%		
あまり好きではない	122	9.3%	きれいな理由 (n=146)	
きれいである	24	1.8%	交通機関が不便だから	34 23.3%
			日常生活が不便だから	25 17.1%
			自然環境がよくないから	23 15.8%
無回答	8	0.6%	(複数回答、上位3位)	
			(単一回答)	

イ 居住年数について

居住年数は、「10～15年未満」、「15～20年未満」、「20年以上」を合わせた10年以上(52.2%)と、「1年未満」、「1～3年未満」、「3～5年未満」、「5～10年未満」を合わせた10年未満(47.4%)が各々約半数を占めている。
(詳細:25ページ)

(n=1313)

居住年数				
1年未満	113	8.6%	10～15年未満	281 21.4%
1～3年未満	127	9.7%	15～20年未満	256 19.5%
3～5年未満	165	12.6%	20年以上	149 11.3%
5～10年未満	216	16.5%		
			無回答	6 0.5%
				(単一回答)

ウ 今後の居留意向について

将来もずっと今のところに住んでいたいと聞いたところ、「住んでいたい」は16.1%である。区別にみると、「住んでいたい」の割合は「中原区」(21.0%)、「川崎区」(19.7%)、「麻生区」(19.6%)が20%前後で比較的多い。居住年数別にみると、年数が長くなるにつれ「住んでいたい」の割合が多くなり、とくに20年以上では30%弱に達している。
(詳細:26ページ)

(n=1313)

今後の居留意向				
住んでいたい	211	16.1%	移りたい	423 32.2%
どちらでもよい	495	37.7%	わからない	177 13.5%
			無回答	7 0.5%
				(単一回答)

(2) 日常生活

ア 自由な時間を過ごす人について

平日の自由な時間をいっしょに過ごす人は、「学校の友達」(52.6%)、「家族」(46.4%)、「一人で過ごすことが多い」(22.9%)の順となっている。性別にみると、女性は男性に比べ「家族」の割合が多く、男性は女性に比べ「一人で過ごすことが多い」の割合が多い。

休日の自由な時間をいっしょに過ごす人は、「家族」(56.1%)、「学校の友達」(32.1%)、「一人で過ごすことが多い」(27.0%)の順となっている。性別にみると、女性は男性に比べ「家族」の割合が多く、男性は女性に比べ「一人で過ごすことが多い」の割合が多い。(詳細:27~28ページ)

イ 自由な時間を過ごす場所について

平日の自由な時間を過ごす場所は、「自分の家」(70.4%)、「学校」(38.2%)、「デパート、ショッピングセンター・モール、商店街」(16.3%)の順となっている。性別にみると、女性は男性に比べ「ショッピングセンター・モール、商店街」の割合が多い。男性は女性に比べ「アミューズメント施設」の割合が多い。

休日の自由な時間を過ごす場所は、「自分の家」(66.6%)、「デパート、ショッピングセンター・モール、商店街」(42.3%)、「アミューズメント施設」(14.6%)の順となっている。性別にみると、女性は男性に比べ「ショッピングセンター・モール、商店街」の割合が多く、男性は女性に比べ「アミューズメント施設」の割合が多い。(詳細:29~30ページ)

ウ 自由な時間の過ごし方について

平日の自由な時間の過ごし方は、「テレビ、ビデオ・DVD、雑誌などをみてのんびり過ごす」(40.4%)、「読書をしたり、音楽を聴いたりする」(24.3%)の順となっている。性別にみると、男性は女性に比べ「ゲームをする」の割合が多い。女性は男性に比べ「携帯電話を利用する」の割合が多い。

休日の自由な時間の過ごし方は、「ショッピングにでかける」(34.6%)、「テレビ、ビデオ・DVD、雑誌などをみてのんびり過ごす」(34.1%)の順となっている。性別にみると、女性は男性に比べ「ショッピングにでかける」の割合が多い。男性は女性に比べ「ゲームをする」の割合が多い。(詳細:31~32ページ)

(n=1313)

(n=1313)

平日			休日		
過ごす人			過ごす人		
学校の友達(クラス・クラブ・部活)	690	52.6%	家族	737	56.1%
家族	609	46.4%	学校の友達(クラス・クラブ・部活)	422	32.1%
一人で過ごすことが多い	301	22.9%	一人で過ごすことが多い	355	27.0%
過ごす場所			過ごす場所		
自分の家	924	70.4%	自分の家	875	66.6%
学校	502	38.2%	デパート、商店街	555	42.3%
デパート、商店街	214	16.3%	アミューズメント施設	192	14.6%
過ごし方			過ごし方		
テレビ、ビデオ・DVD、雑誌などをみてのんびり過ごす	530	40.4%	ショッピングにでかける	454	34.6%
読書をしたり、音楽を聴いたりする	319	24.3%	テレビ、ビデオ・DVD、雑誌などをみてのんびり過ごす	448	34.1%
特に何もせず、ぶらぶらしたり、寝転がっている	306	23.3%	特に何もせず、ぶらぶらしたり、寝転がっている	276	21.0%

(2つまで回答、上位3位)

(2つまで回答、上位3位)

(3) 就学・就労の状況

ア 就学・就労の状況について

就学・就労の状況は、学生と社会人・その他の割合は、7:3である。社会人の内訳をみると、「正社員・正職員」の割合が少なくなり、その分「アルバイト・パート」の割合が多くなっている。

(詳細:33～34ページ)

(n=1313)

学生・社会人の別			学生の内訳			社会人の内訳		
学生	907	69.1%	中学校	296	30.9%	正社員・正職員	221	54.6%
社会人	326	24.8%	高等学校	294	30.7%	アルバイト・パート	134	33.1%
勤労学生	52	4.0%	大学、専門学校、 予備校、その他	369	38.5%	その他	52	12.3%
学生以外の無職	27	2.1%						
無回答	2	0.2%						

(複数回答)

イ 通学・通勤先の所在地について

学校・職場はどこにあるかは、「住んでいる区内」、「川崎市内」を合わせた「川崎市」の計が40%弱である。就学就労別にみると、「川崎市」の計が最も高いのは中学生で78.1%である。高校生、社会人、その他では30～40%台に低下する。特に大学生はその割合が7.2%と極端に低下する。

(詳細:35ページ)

(n=1313)

通学・通勤先の所在地					
住んでいる区内	213	16.2%	東京都内	483	36.8%
川崎市内	309	23.5%	首都圏内	31	2.4%
横浜市内	140	10.7%	その他	27	2.1%
神奈川県内	88	6.7%			
			無回答	22	1.7%

(単一回答)

(4) 学校・職場でのグループ活動

ア 学校・職場でのグループ活動の参加状況について

参加率は51.7%であるが、就学就労別にみると、その他を除いて年代が低いほど参加率は高く、反対に年代が上の社会人は下の年代と比べて低い。

活動に参加する理由は、「やりたいと思っていたことだから」が最も多く60.1%である。中でも中学生の割合が72.0%と最も多い。次いで性別にみると、男性では「体をきたえるため」(11.5%)、女性では「友人や仲間を得るため」(12.9%)である。

活動に参加しない理由は、「忙しくて時間がとれないから」が最も多く31.7%である。就学就労別にみると、高校生では「やりたいと思っているグループ活動・団体活動がないから」(30.9%)、大学生以上、社会人では「忙しくて時間がとれないから」(43.9%)、(42.9%)の割合で各々多い。

(詳細:36～38ページ)

(n=1313)

学校・職場でのグループ活動参加状況					
参加している	679	51.7%	参加の動機 (n=679)		
			やりたいと思っていたことだから	408	60.1%
			友人や仲間を得るため	69	10.2%
参加していない	618	47.1%	不参加理由 (n=618)		
			忙しくて時間がとれないから	196	31.7%
			やりたいと思っているグループ活動・団体活動がないから	144	23.3%
無回答	16	1.2%	グループ・団体活動に参加してまでやりたいことがないから	88	14.2%

(単一回答)

(単一回答、上位3位)

(5) 地域での活動

ア 地域活動への参加状況について

地域活動への参加状況を見ると、「参加していない」は91.6%、「参加している」は7.2%である。青少年の地域活動離れは依然として続いていると思われる。性別、就学就労別、居住年数別にみても「参加している」はいずれにおいても10%未満である。

参加している地域活動は、「祭・運動会など地域のイベント」(37.2%)と「スポーツ活動(野球・サッカーなど)」(31.9%)が多くあげられている。性別にみると、男性では「スポーツ活動(野球・サッカーなど)」(52.9%)、女性では「祭・運動会など地域のイベント」(41.9%)が多くあげられている。

地域活動に参加していない理由で多かったのは、「地域でどんな活動が行われているか知らないから」(44.1%)、「参加する時間的余裕がないから」(29.9%)、「地域の活動には興味がないから」(22.4%)の順である。性別、就学就労別、区別、居住年数別にみると、いずれにおいても「地域でどのような活動が行われているか知らないから」が30%強～60%強で最も多くあげられている。

(詳細:39～44ページ)

(n=1313)

地域活動への参加状況				
参加している	94	7.2%	参加している活動(n=94)	
			祭・運動会など地域のイベント	35 37.2%
			スポーツ活動(野球・サッカーなど)	30 31.9%
			町内会、自治会などの係や役員活動	11 11.7%
参加していない	1203	91.6%	不参加の理由(n=1203)	
			地域でどのような活動が行われているか知らないから	530 44.1%
			参加する時間的余裕がないから	360 29.9%
			地域の活動には興味がないから	269 22.4%
無回答	16	1.2%	(複数回答、上位3位)	
			(単一回答)	

(6) ボランティア活動

ア ボランティア活動への参加状況について

ボランティア活動への参加状況を見ると、「参加している(参加したことがある)」が31.0%である。

ボランティア活動の内容で多かったのは、「清掃、緑化運動」(42.8%)、「ごみ、資源などのリサイクル活動」(29.2%)、「高齢者のための活動」(27.5%)の順である。性別にみると、参加率は女性が男性より高く、就学就労別にみると、社会人よりも学生の参加率が高い。

ボランティア活動に参加しない理由で多いのは、「ボランティア活動に参加するきっかけがないから」(35.2%)、「ボランティア活動に参加する時間がないから」(27.1%)、「ボランティア活動には興味がないから」(21.8%)の順である。性別、就学就労別、区別、居住年数別にみると、いずれにおいてもこの3つが理由の大半を占めている。

(詳細:45～49ページ)

(n=1313)

ボランティア活動への参加状況				
参加している (参加したことがある)	407	31.0%	参加している活動(n=407) (複数回答、上位3位)	
			清掃、緑化活動	174 42.8%
			ごみ、資源などのリサイクル活動	119 29.2%
			高齢者のための活動	112 27.5%
参加していない	890	67.8%	不参加の理由(n=890) (単一回答、上位3位)	
			ボランティア活動に参加するきっかけがないから	313 35.2%
			ボランティア活動に参加する時間がないから	241 27.1%
			ボランティア活動には興味がないから	194 21.8%
無回答	16	1.2%		
			(単一回答)	

(7) 携帯電話・パソコンの使用状況

ア 携帯電話の所有状況・通話回数・メール送信回数について

1日の携帯電話での通話回数は、「1～3回」(42.3%)と「ほとんど話さない」(36.6%)で78.9%を占めている。

性別、就学就労別にみると、高校生、大学生以上でも、同様に「1回～3回」、「ほとんど話さない」が多くの割合を占めるが、中学生では「ほとんど話さない」、「持っていない」が全体の68.9%を占めている。

参考として、携帯電話の所有状況を過去の調査結果と比較したところ、携帯電話の所有率は17.5ポイント増え、90.2%となっている。

1日の携帯メールの送信回数は、1～10回までが55.1%を占め、11回以上は37.7%である。性別にみると、女性の方が男性に比べ11回以上の割合多く、就学就労別にみると、年代が高くなるにつれ11回以上の割合が少なくなる傾向がみられる。(詳細:50～52ページ)

(n=1313)

携帯電話の所有状況・通話回数・メール送信回数								
持っている	1185	90.2%	1日の通話回数(n=1185)			1日の携帯メール送信回数(n=1185)		
			1～3回	556	42.3%	7～10回	234	19.7%
ほとんど話さない	481	36.6%	4～6回	230	19.4%			
			4～6回	89	6.8%	11回～20回	207	17.5%
持っていない	107	8.1%	(単一回答、上位3位)					
無回答	21	1.6%						

イ パソコンの利用状況・目的・インターネットへのアクセス時間について

主にどのパソコンを利用しているかは、「自分専用のものを利用している」(26.6%)と「家族と共有して利用している」(50.0%)を合わせた自宅でのパソコン所有が76.6%である。性別にみても、「自分専用のものを利用している」の割合は男性が女性に比べ多く、就学就労別にみると、大学生の「自分専用のものを利用している」の割合が44.0%で最も多い。

パソコンの利用目的で多いのは、「インターネットでの情報収集」(85.1%)、「学校の宿題、仕事」(50.4%)、「メールをする」(28.8%)、「ゲームをする」(28.7%)の順となっている。性別にみると、多いのは男女とも「インターネットでの情報収集」、「学校の宿題、仕事」の順であるが、男性では「ゲームをする」、女性では「メールをする」が続く。就学就労別にみると、大学生以上では「学校の宿題、仕事」が他の年代に比べて多い。

平日のインターネットアクセス時間は、全体、性別、就学就労別いずれにおいても、3時間未満が80%以上を占めている。

休日のインターネットアクセス時間は、全体、性別、就学就労別いずれにおいても、3時間未満が80%以上を占めている。(詳細:53～57ページ)

(n=1313)

パソコンの利用状況、目的					
自分専用のものを利用している	349	26.6%	利用目的(n=1127)		
			インターネットでの情報収集	959	85.1%
家族と共有して利用している	656	50.0%	学校の宿題、仕事	568	50.4%
学校、職場、インターネットカフェなどで利用している	122	9.3%	メールをする	325	28.8%
利用していない	163	12.4%	(複数回答、上位3位)		
無回答	23	1.8%			
(単一回答)					

(n=1127)

インターネットへのアクセス時間					
平日			休日		
0～1時間	710	63.0%	0～1時間	575	51.0%
1～3時間	311	27.6%	1～3時間	378	33.5%
3～5時間	50	4.4%	3～5時間	106	9.4%
5時間以上	51	4.5%	5時間以上	62	5.5%
無回答	5	0.4%	無回答	6	0.5%
(単一回答)			(単一回答)		

ウ 「フィルタリングソフト」の認知、利用状況について

「フィルタリングソフト」については、「知らない」が63.4%を占めている。性別にみると、女性が男性に比べ「知らない」の割合が多く、就学就労別にみると、中学生の「知らない」が77.0%で最も多い。大学生以上、社会人、その他では、「知っている、利用している」、「知っているが、利用していない」、「知っているが、利用しているかはわからない」を合わせた「知っている」の計が40%前後である。

「フィルタリングソフト」をどこで知ったかは、「雑誌、テレビ、インターネットなど」が56.8%で特に多い。性別、就学就労別にみても、「雑誌、テレビ、インターネットなど」が各々で最も多い。高校生では、「学校の先生から教えてもらった」(39.6%)が次いで多い。(詳細:58~60ページ)

(n=1313)

フィルタリングソフトの認知、利用状況				
知っている、利用している	55	4.2%	認知経路 (n=1185)	
知っているが、利用していない	335	25.5%	雑誌、テレビ、インターネットなど	266 56.8%
知っているが、利用しているかはわからない	78	5.9%	学校の先生から教えてもらった	83 17.7%
			パソコン、携帯電話会社など	67 14.3%
知らない	832	63.4%	(複数回答、上位3位)	
無回答	13	1.0%	(単一回答)	

エ 「出会い系サイト」へのアクセス経験について

「出会い系サイト」にアクセスしたことがあるかは、「利用したことがある」は6.4%、性別では男性が女性に比べやや多い。就学就労別にみると、中学生が0.3%、高校生が2.1%、大学生以上が6.9%、社会人が13.6%、その他が12.9%である。(詳細:61ページ)

(n=1313)

「出会い系サイト」へのアクセス経験		
アクセスし利用したことがある	84	6.4%
アクセスしたことがあるが、利用したことはない	154	11.7%
アクセスしたことはない	951	72.4%
知らない、わからない	114	8.7%
無回答	10	0.8%
		(単一回答)

(8) 消費者トラブル

ア 消費者トラブルの被害経験について

この1年間に、消費者トラブルにあったことがあるかは、74.7%が「この1年間に消費者トラブルにあわなかった」と回答している。性別にみると、トラブルにあった中で比較的多い「メールやはがきなどで不当な請求を受けた」では男性の方が、「街頭や電話で勧誘され、契約を勧められた」では女性の方がやや多い。就学就労別にみると、中学生は、それ以上の年代に比べ、トラブルに会う機会が少ない傾向がみられる。(詳細:62~63ページ)

(n=1313)

消費者トラブルの被害経験		
メールやはがきなどで不当な請求を受けた	149	11.3%
街頭や電話で勧誘され、契約を勧められた	120	9.1%
友人や先輩から商品の購入や、商品販売組織への加入を勧められた	29	2.2%
この1年間に消費者トラブルにあわなかった	981	74.7%
		(複数回答、上位3位)

イ 消費者トラブルの相談相手について

消費者トラブルにあった時、誰と相談するかで多いのは、「家族に相談」(72.7%)、「友人や先輩に相談」(34.7%)の順である。性別にみると、「家族に相談」は男女とも第1位であるが、女性の方が男性より20ポイント弱高くなっている。「友人や先輩に相談した」はやや男性の方が高い。

(詳細:64～65ページ)

(n=1313)

消費者トラブルの相談相手		
家族に相談	955	72.7%
友人や先輩に相談	456	34.7%
消費者行政センターなどの相談窓口相談	288	21.9%

(複数回答、上位3位)

2 青少年の意識

(1) 意識

ア 学校や職場の楽しさについて

学校や職場(アルバイト含む)は楽しいところかは、「楽しい」、「まあ楽しい」を合わせた「楽しい」の計は78.5%である。就学就労別にみると、学生では「楽しい」の計が各々80%台であるが、社会人、その他では60%前後になっている。

学校が楽しくない理由で最も多いのは、全体、性別、各学生とも「なんとなく面白くないから」で40～50%台を占める。性別にみると、次いで男女とも「学校の規則や先生がきらいだから」(男性38.3%、女性23.1%)で、女性は「勉強がわからないから」(23.1%)も同率である。

職場が楽しくない理由で最も多いのは「仕事が忙しすぎるから」で50.0%である。次いで「給与や待遇に不満があるから」(35.8%)である。女性では「職場の人間関係がうまくいかないから」も「給与や待遇に不満があるから」と同率である。「仕事が忙しすぎるから」は正社員・正職員で比較的多い。

(57.0%)

(詳細:66～68ページ)

(n=1313)

学校や職場の楽しさ				
楽しい	493	37.5%		
まあ楽しい	538	41.0%		
あまり楽しくない	140	10.7%	楽しくない理由(学生)(n=99)	
楽しくない	60	4.6%	なんとなく面白くないから	47 47.5%
			学校の規則や先生がきらいだから	30 30.3%
			勉強がわからないから	20 20.2%
			楽しくない理由(社会人)(n=106)	
			仕事が忙しすぎるから	53 50.0%
			給与や待遇に不満があるから	38 35.8%
			職場の人間関係がうまくいかないから	31 29.2%

どちらにも所属しない 78 5.9%

(複数回答、上位3位)

無回答 4 0.3%

(単一回答)

イ 社会に対する満足度・不満理由について

現在の日本社会全般に満足か不満かについては、「満足である」、「やや満足である」を合わせた「満足」の計は21.4%、「やや不満である」、「不満である」を合わせた「不満」の計は58.5%である。性別にみると、「満足」の計は男性が女性に比べやや多い。満足度で比較的関連の強い項目は、「学校・職場の楽しさ」(28.4%)、「社会的な地位を得ること」(25.0%)、「家族が幸せに暮らすこと」(23.7%)の順となっている。

社会に対する不満理由で特に多いのは、「ものごとが、一部の人の意見や考え方で決められることがあるから」(55.5%)である。性別にみると、「高齢者や障がい者に対する社会的配慮が十分でないから」に男性22.5%、女性37.7%と男女にひらきがある。(詳細:69~70ページ)

(n=1313)

社会に対する満足度・不満理由				
満足である	60	4.6%		
やや満足である	221	16.8%		
やや不満である	480	36.6%	不満理由 (n=768)	
不満である	288	21.9%	ものごとが、一部の人の意見や考え方で決められることがあるから	426 55.5%
			正しいことが通らないから	295 38.4%
			まじめな者がむくわれないから	259 33.7%
わからない	260	19.8%	(複数回答、上位3位)	
無回答	4	0.3%		
		(単一回答)		

ウ 理想とする生き方について

理想とする生き方について最も近いものは、多い順に「家族が幸せに暮らすこと」(42.9%)、「自分の好きなように暮らすこと」(29.3%)である。性別にみると、女性が男性に比べ「家族が幸せに暮らすこと」(50.1%)の割合が高い。男性は女性に比べ、「経済的に豊かになること」の割合が比較的多い。就学就労別にみると、どの年代も「家族が幸せに暮らすこと」が最も多いが、中学・高校生は30%台、大学生以上、社会人、その他と年代が上がると40%台となっている。(詳細:71ページ)

(n=1313)

理想とする生き方		
家族が幸せに暮らすこと	563	42.9%
自分の好きなように暮らすこと	385	29.3%
経済的に豊かになること	156	11.9%
社会のために尽くすこと	44	3.4%
社会的な地位を得ること	24	1.8%
わからない	59	4.5%
その他	51	3.9%
無回答	31	2.4%
		(単一回答)

エ 幸福感について

幸福かどうかを聞いたところ、「そう思う」は39.5%、性別にみると、女性が男性に比べ「そう思う」の割合が多い。「そう思う」で関連が高いのは、社会満足度別の「満足である」(78.3%)、次いで学校・職場の楽しさ別の「楽しい」(57.6%)である。(詳細:72ページ)

(n=1313)

幸福かどうか		
そう思う	518	39.5%
どちらかといえばそう思う	619	47.1%
どちらかといえばそう思わない	119	9.1%
そう思わない	52	4.0%
無回答	5	0.4%
		(単一回答)

オ 悩みやストレスの原因・相談相手について

悩みやストレスの原因で多いのは、「勉強のこと」(40.4%)、「将来の生活のこと」(36.9%)、「お金のこと」(33.1%)の順である。性別にみると、女性が男性に比べ10ポイント以上多いのは「友人や仲間のこと」、「家族のこと」、「性格のこと」、「容姿のこと」である。就学就労別にみると、最も多いのは、中学・高校生が「勉強のこと」(65.2%、56.7%)、大学生以上が「就職のこと」(54.4%)、社会人、その他が「将来の生活のこと」(41.6%、49.0%)となっている。

悩みごとの相談相手は、「友人」が67.6%で特に多い。次いで、「母」が41.3%である。性別にみると、男女のひらきがあるのは、「友人」、「母」である。就学就労別にみると、「友人」は各年代で最も多い。悩み原因別では、「友人」はどの項目でも50%以上、「母」は同様に30%以上となっており、悩みごとが多岐にわたっている傾向がみられる。(詳細:73~77ページ)

(n=1313)

悩みやストレスの原因		
勉強のこと	530	40.4%
将来の生活のこと	485	36.9%
お金のこと	435	33.1%

(複数回答、上位3位)

(n=1313)

悩みごとの相談相手		
友人	888	67.6%
母	542	41.3%
恋人	230	17.5%

(複数回答、上位3位)

カ 現在の関心事について

今、関心のあることで多いのは、「自分の将来や進路のこと」(63.4%)、「趣味のこと」(47.0%)、「流行やファッションのこと」(39.7%)の順である。性別にみると、男女のひらきがあるのは、「流行やファッションのこと」で女性が男性より20.1ポイント多い。第1位の「自分の将来や進路のこと」と問16.理想的生き方別との関連で最も強いのは「社会のために尽すこと」(77.3%)である。次いで「社会的な地位を得ること」(70.8%)の順となっている。(詳細:78~80ページ)

(n=1313)

現在の関心事		
自分の将来や進路のこと	833	63.4%
趣味のこと	617	47.0%
流行やファッションのこと	521	39.7%

(複数回答、上位3位)

(2) 社会の問題

ア 意地悪やいじめの経験・内容について

この1年間に次の意地悪、いじめ、いやがらせをされたかは、「いじめなどの経験はない」(52.8%)、「経験がある」(44.8%)でおよそ5:4に分かれている。(詳細:81ページ)

(n=1313)

意地悪やいじめの経験・内容		
ばかにされたり、悪口をいわれた	297	22.6%
自分の弱点をからかわれた	267	20.3%
いたずら電話や変な電話、メール、手紙が送られてきた	191	14.5%
以上のようなことは、この1年間にされなかった	693	52.8%

(複数回答、上位3位)

イ 「むかつく」・「きれる」と感じることにについて

「むかつく」、「きれる」と感じる程度は、「いつも感じる」と「ときどき感じる」を合わせた「感じる」の計は70.3%である。性別にみると、女性が男性より「感じる」の計が9ポイント高い。就学就労別にみると、中学生が75.0%で最も高い。

どんなときに「むかつく」、「きれる」と感じるかで多いのは、「物事が自分の思うように進まないとき」(52.7%)、「友達や仲間の悪口を言われたりしたとき」(42.1%)の順である。

(詳細:82～84ページ)

(n=1313)

「むかつく」・「きれる」と感じること				
いつも感じる	126	9.6%	「むかつく」・「きれる」と感じるとき (n=923)	
ときどき感じる	797	60.7%		
			物事が自分の思うように進まないとき	52.7%
			友達や仲間の悪口を言われたりしたとき	42.1%
			他の人が禁止行為や違反行為をしているのを見たり、聞いたりしたとき	31.6%
あまり感じない	330	25.1%		
感じない	51	3.9%		
無回答	9	0.7%		

(複数回答、上位3位)
(単一回答)

ウ 非行について

非行する人の気持ちが理解できるかは、全体、性別で、「理解できる」、「だいたい理解できる」を合わせた「理解できる」の計と「あまり理解できない」と「理解できない」を合わせた「理解できない」の計の比率はおよそ5:4である。就学就労別にみると、中学生では4:5、高校生、大学生以上では5:4、社会人では5:5、その他では6:3となり、理解できないの比率は年代が上がるにつれ大きくなる。

非行の原因は何だと感じるかで多いのは、「家庭環境の問題」(78.9%)、「本人の問題」(63.6%)の順である。就学就労別にみても、「家庭環境の問題」が第1位であるが、中学生を除く他の年代は80%前後に対し、中学生は60%台で比較的低い。但し、中学生それ自身の中では最も高い。

(詳細:85～87ページ)

(n=1313)

非行する人への理解					
理解できる	146	11.1%	非行の原因 (n=703)		
だいたい理解できる	557	42.4%			
				家庭環境の問題	555
			本人の問題	447	63.6%
			学校の問題	320	45.5%
あまり理解できない	410	31.2%			
理解できない	181	13.8%			
無回答	19	1.4%			

(複数回答、上位3位)
(単一回答)

エ よく行く場所、楽しい場所について

よく行く場所など、22施設や店の中で上位3位は次のとおりである。第1位は「デパート、ショッピングセンター・モール、商店街」(37.6%)、第2位は「学校」(19.2%)、第3位は「アミューズメント施設」(18.1%)である。求めるものは22か所中、最も多いのは「楽しさ」で13か所、以下同様に「リフレッシュ」が3か所、「勉強や仕事のため」が3か所、「友達仲間との時間」が2か所、「趣味のため」が1か所、「暇つぶし」が1か所である。一緒に行く人は22か所中「友人」が最も多いのが15か所、「一人で」が8か所となっている。
(詳細:88～93ページ)

デパート、ショッピングセンター・モール、商店街 (n=494)

求めるもの						一緒に行く人					
楽しさ		リフレッシュ		友達・仲間との時間		友人		一人で		家族	
240	48.6%	203	41.1%	124	25.1%	330	66.8%	224	45.3%	117	23.7%

学校 (n=252)

求めるもの						一緒に行く人					
友達・仲間との時間		楽しさ		勉強、仕事のため		友人		一人で		家族	
129	51.2%	103	40.9%	89	35.3%	196	77.8%	116	46.0%	27	10.7%

アミューズメント施設(ゲームセンター、ボウリング、ビリヤードなど) (n=238)

求めるもの						一緒に行く人					
楽しさ		友達・仲間との時間		リフレッシュ		友人		一人で		恋人、妻、夫	
150	63.0%	81	34.0%	67	28.2%	212	89.1%	51	21.4%	37	15.5%

(2つずつ回答、上位3位)

(3) 行政施策認知、要望

ア 行政施設の認知、利用状況について

川崎市内の施設の利用状況は、「定期的にご利用している」、「何回か利用している」、「1度くらい利用した」を合わせた利用率で最も高いのは「図書館」(82.4%)、次いで「等々力陸上競技場」(62.9%)、「とどろきアリーナ」(60.5%)の順である。反対に利用率が最も低いのは3%前後で「青少年創作センター」、「子ども夢パーク」、「かわさき市民活動センター」、「ふれあい館」である。

(詳細:94～99ページ)

(n=1313)

施設名	行政施設の認知、利用状況					
	定期的にご利用している		何回か利用している		1度くらい利用した	
図書館	182	13.9%	759	57.8%	140	10.7%
等々力陸上競技場	29	2.2%	363	27.6%	434	33.1%
とどろきアリーナ	31	2.4%	404	30.8%	359	27.3%

(各施設ごと単一回答、上位3施設)

イ 行政施設への要望について

青少年の施設への要望は、「施設の利用料金を安くしてほしい」が26.7%で最も多い。性別にみると、女性が男性より比較的多く上まわっているのは「楽しいイベントや講座をひらいてほしい」、「趣味のイベントや講座を開いてほしい」である。男性が女性より上まわっているのは「遊びやゲームがたくさんできるようにしてほしい」である。

(詳細:100～101ページ)

(n=1313)

行政施設への要望		
施設の利用料金を安くしてほしい	350	26.7%
施設や設備をもっと充実させてほしい	277	21.1%
開館する曜日や時間を利用しやすいようにしてほしい	260	19.8%

(複数回答、上位3位)

ウ 「川崎市子どもの権利に関する条例」の認知状況

「川崎市子どもの権利に関する条例」を知っているかについては、「知っている」は33.9%、「知らない」は65.7%である。性別にみると、「知っている」は女性が男性より多い。就学就労別にみると、その他を除いて年代が上がるにつれ、「知っている」が低くなる傾向である。 (詳細:102ページ)

(n=1313)

「川崎市子どもの権利に関する条例」の認知状況		
知っている	445	33.9%
知らない	863	65.7%
無回答	5	0.4%

(単一回答)

エ 子どもの権利に関する施策の認知内容

子どもの権利に関する施策については、「不明・無回答」が51.9%を占めている。知っている施策では、「川崎市子ども会議」が25.6%で比較的高い。性別にみても「川崎市子ども会議」が比較的高い。就学就労別にみると、「川崎市子ども会議」は中学・高校生が30%台で、それ以上の年代と比べ高い。 (詳細:103～104ページ)

(n=1313)

子どもの権利に関する施策の認知内容		
川崎市子ども会議	336	25.6%
かわさき子どもの権利の日	161	12.3%
人権オンブズパーソン	151	11.5%
無回答	682	51.9%

(複数回答、上位3位)

オ 「子どもの権利と責任」についての考え方

「今の子どもには権利よりも責任が大切」という意見についてどう思うかは、全体、性別、就学就労別いずれも「責任も権利も両方大切」が過半数を占めている。 (詳細:105ページ)

(n=1313)

「子どもの権利と責任」についての考え方		
責任よりも権利が大切	49	3.7%
どちらかといえば権利が大切	57	4.3%
責任も権利も両方大切	786	59.9%
どちらかといえば責任が大切	216	16.5%
権利よりも責任が大切	184	14.0%
無回答	21	1.6%

(単一回答)

(問32、33、35、36については1～2ページ参照)